

特集

〈事例〉

しおがまウイルスバスター隊 学校の消毒作業に奮闘

公益社団法人
塩釜市シルバー人材センター

(宮城県)

塩釜市SCでは、市内10校の小中学校で消毒を行う業務を市より受託。「しおがまウイルスバスター隊」として、5月下旬から就業を開始した。現在約70人の会員が「孫が通学しているから」「母校だから」「地域貢献したい」などの思いで、子どもたちを新型コロナウイルスから守るために奮闘。そうした姿に多くの感謝が寄せられている。センターでは感染防止対策の徹底に注力している。

塩釜市は宮城県のほぼ中央に位置し、奥州一の宮・鹽竈神社の門前町として、また、港町として栄えてきた。近代以降は近海・遠洋漁業の基地として発展し、日本有数のマグロの水揚げ港となっている。人口は約五万四千人。

市名は「塩竈」と「塩釜」の両方の表記が認められているが、地名の由来が鹽竈神社にちなむことなどから、市では「塩竈」を用いている。

センターの概況

塩釜市SCは昭和五十七年六月に設立。昭和五十九年一月に社団法人となり、平成二十五年四月に公益法人に移行した。拠点は、J

R本塩釜駅から徒歩約三分。

令和元年度の会員数は三百一十人で、前年度と同数。契約金額は約一億四千二百七十万円（労働者派遣事業を含む）であった。

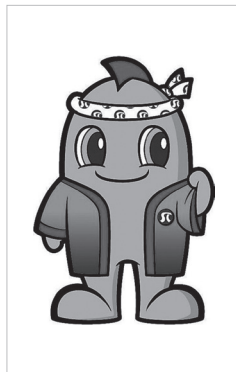
同センターの特徴の一つが、イメージキャラクター「シルマガちゃん」の存在だ。子どもからお年寄りまで愛されるセンターを目指して、平成二十五年に公募し、多数の応募作品から選ばれて誕生した。市内イベントなどに着ぐるみ参加しては人気者となり、センターの認知度を高めている。

新型コロナウイルスの影響と

感染拡大防止への対応

国の緊急事態宣言の発出中、多

「シルマガちゃん」。マグロをモチーフにした姿と、国指定天然記念物・塩釜桜をイメージした桜色をしている。



くの公共施設が閉鎖されたことから、施設管理の就業が休みとなった。また、密になることを避けるため、植木の剪定や除草の就業は中止していた。いずれも、緊急事態宣言の解除後には再開している。センターの取り組みでは、毎年百三十人ほどが出席する定時総会が、理事と代表会員のみの少人数で令和二年六月に開催した。



令和2年5月25日に行われた「しおがまウイルスバスター隊」出動式。全国で初めて小中学校での消毒作業を受託したこともあり、多数のメディアに報道された

技能講習会は、基本的に開催を見合わせている。一方、入会説明会はこれまでと同じ月二回の開催。参加人数は多くても十人ほどのた

め、三密を避ける配慮や換気に気を付けて実施している。市から受託している訪問介護事業はコロナ禍の前とほぼ同様の受

注があり、会員はこれまで以上に感染予防に注意して就業を行って

いる。

事務局では感染防止対策として、透明のビニールカーテンによる飛沫防止、出入り口でのアルコール消毒や検温を徹底している。

小中学校の消毒作業を受託

国の緊急事態宣言発出中の五月、市の教育委員会から、小中学校十校で消毒を行う業務の委託を打診された。事務局では感染の危険性も含めて全職員で検討の上、会員に電話したところ、約三十人から「できる」との返答があった。会員からは「母校の役に立ちたい」「孫が通学しているから、子どもたちを守る気持ちで頑張りたい」という声があり、受託を決めた。

●就業の内容

放課後の十五時三十分〜十七時に、校内の机および椅子、ドアノブ、手すり、洗面所の蛇口など児童・生徒が触れる箇所を次亜塩素

酸ナトリウム水溶液で拭き、その後水拭きをする。

受託期間は令和二年五月二十五日〜六月三十日(平日の二十七日間)であったが、急ぎよ七月一日〜八月七日(平日の二十六日間)が追加となった。その後さらに、夏休み明けから二学期いっぱい(予定で、八月十九日〜十二月二十三日(平日の八十六日間)の受託が決まった。

●就業に向けて

就業開始前、就業予定会員に各学校の担当ごとに集まってもらい、事務局職員が説明会を開いた。感染防止に努めること、作業に使用する次亜塩素酸ナトリウム水溶液の説明、仕上げに必ず水拭きが必要な理由などを伝え、十分に理解した上で作業ができるようにした。

●就業開始

「しおがまウイルスバスター隊」の愛称が市から付与されて、五月二十五日、市立第一小学校で仕事始めの出動式を開催。「新型コロナ

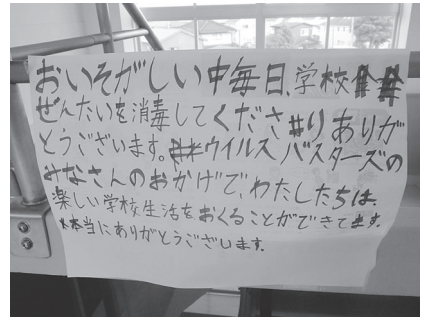
ウイルス感染症から、小中学校の生徒を守りたい」「先生方の負担を少しでも軽減したい」「受託契約が減少している塩釜市SCの就業確保も目的」などの言葉が市長からあった。

小中学校での消毒作業をシルバー人材センターが受託するのは全国で初めてだったこともあり、式には多数のメディアが集まりテレビや新聞で大きく報道された。

●就業会員

当初六十人ほどで開始したが、この就業を希望して入会した会員が加わり、現在は約七十人で取り組んでいる。メンバーは、引地繁五理事長をはじめ男性約四十人、女性約三十人。

就業は、できるだけ自宅から近い学校になるように配慮している。一校につき四人体制が六校、五人体制が四校で、学校ごとに六十人の班を編成し、ローテーションを組んでいる。就業日の調整は、基本的に班員同士で行っている。



校内に掲示されていた、しおがまウイルスバスター隊への感謝のメッセージ

受託期間が追加されたことや就業会員のほとんどがほかの就業も兼ねていることから、無理のないローテーションが組めるよう、事務局ではあと三十人程度増員し、百人体制にしたいと考えている。そのためウイルスバスター隊員募集のチラシを作成し、新聞折り込みで大々的に募集をかけた。その後も会員拡大に励んでいる。

感謝のメッセージが届く

ウイルスバスター隊には感謝の声が多数寄せられていて、菊田芳弘常務理事兼事務局長は次のよう

に紹介する。

「ある小学校で二十人ほどの児童がウイルスバスター隊へ手紙を書いてくれました。児童四十人のメッセージを送ってくれた学校もあります。また、校内に手書きのメッセージが掲示されていることでもあります。先生方からは『授業に専念できます』などの言葉をいただいていますし、学校から保護者への配布物などにウイルスバスター隊の紹介や感謝がつづられていたとも聞いています」。

児童からのメッセージには、「おかげで安心して学校に來られてうれしいです」「みんなが触る水道やトイレが安心して使えます」などの感謝とともに、「皆さんもウイルスに気を付けて元気に過ごしてください」など、会員をねぎらう言葉もあふれている。

また、市内の老舗企業から隊員へマスク千枚の寄贈も受けた。

こうした感謝を受けて、就業会員からは「張り合いがある」「市や

市民へ恩返しをしたい」などの声が聞かれ、「喜びとやりがいを感じて就業に励んでいます」と菊田事務局長。

センター内においても、こんなことがあった。新入会員が、しばらく発行されていなかったセンターの会報「塩釜シルバーだより」の編集を率先して手掛け、ウイルスバスター隊の活躍を伝える記事を盛り込んだ。コロナ禍で会員活動が制約される中、みんなが話題を共有することができている中身の濃い会報が完成した。

新規の受注が増える

ウイルスバスター隊のニュースが報じられた後、民間企業からも消毒作業の依頼があつた。令和二年七月から一年間、自動車学校内の教室などを週一回消毒する内容だ。さらに、九月十五日から市の健診会場での消毒や来場者への整理券の配布、検温チェック支援などの業務を市から受託した。



学校の教室（写真上）はもちろん、廊下の窓の鍵部分（写真下）も丁寧に消毒する、しおがまウイルスバスター隊のメンバー



安全はすべてに優先する

コロナ禍で一時はかなり就業が減少していたが、こうした新規の受注が増えて、事務局は忙しい毎日となっている。

菊田事務局長は、「会員の働きぶりやセンターが長年地道に運営してきたことを、市をはじめ多くの皆さんが見てくれたのだと思います」と受け止めている。

ウイルスバスター隊の就業は当初一か月の予定だったが、期間が延長されて真夏にも行われた。作

業時は感染予防のマスクとフェースシールドを着用するので熱中症対策も重視。十分に注意して作業に臨み、全員が無事に過ぎました。

菊田事務局長は期間終了まで、会員が無事に就業することを一番に目指している。その一方で、「年齢の高い会員に、今、消毒作業をしてもらってよいのか」と自問しながらこの就業と向き合っていると胸の内を明かした。今後の課題として真っ先に挙げたのは、「感染しないこと、させないこと」。

そして、「正解は分かりませんが、

精いっぱい対策を講じていきま

す」と言葉を続けた。再び感染が拡大する恐れもあり不安がよぎるが、「安全はすべてに優先する」を基本とし、スローガンに「自分の命を大切にする」を掲げて、「会員一人ひとりが高い意識を持ち、三密を避け、自己管理に努めること」を呼び掛け続けている。

自然災害や感染症に対する対応策の検討を

感染症だけでなく、台風や豪雨地震などの自然災害も増えている

昨今、菊田事務局長は東日本大震災後に全国から届いた多くの支援や声援に助けられた塩釜市SCの経験も踏まえて、今後取り組みたいこととして次のように語った。

「自然災害や感染拡大などのリスクに、センターはどう対応していったらよいのか。検討し、対策を進めていく必要性を感じています。また、被災して困っているセンターを他地域のセンターが助け

られるネットワークのようなものが構築できないかとも考えます。いずれも当センターだけの課題ではないと思いますので、ほかのセンターの考えなどを聞いていきたいと思えます」。

（増山美智子）

事業運営状況

（平成27年度～令和元年度）

年度	会員数			粗入会率 %	就業実人員 (延人員) 人 (人日)	就業率 %	受注件数 件	契約金額 千円	公民比 %
	男	女	計						
平成27	213	97	310	1.4	258 (32,062)	83.2	3,180	157,711	30.5/69.5
28	224	92	316	1.5	266 (30,541)	84.2	3,258	151,743	32.1/67.9
29	226	99	325	1.5	258 (27,636)	79.4	2,413	138,779	37.9/62.1
30	215	96	311	1.4	243 (27,285)	78.1	2,392	133,743	32.6/67.4
令和元	215	96	311	1.4	243 (26,832)	78.1	2,371	142,700	36.3/63.7

※受注件数、就業延人員、契約金額は請負・委任と労働者派遣事業を合計した数値
 ※就業実人員は平成29年度まで請負・委任、平成30年度以降は請負・委任と労働者派遣事業が対象